

平成30年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標 <1：学力の向上と定着 2：思いやりの心と主体性の育成 3：体力の向上と健康安全教育の充実 4：地域とともにある学校づくりの推進>

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価			学校関係者評価コメント	評価
			児童	保護者	教職員		
知	① 指導方法・指導体制の工夫改善によって学力が向上しているか。 ② 読書活動の推進が図られているか。	① 諸学力調査では、5・6年生とも昨年度より伸びている。アンケートの結果から、授業では「学習のめあてをもって学習している」と回答した児童が約8割いる。また、「児童は真剣に取り組んでいる」と回答した保護者は95%で、「分かりやすい授業が展開されていると実感している」と回答した保護者が96%であった。 ② 「家庭でも進んで本を読んでいる」と答えた児童は6割で保護者も同様である。日頃から読書に親しんでいる児童とそうでない児童との差が大きい。読書に興味・関心があまりない児童を読書へ誘う工夫が必要である。	3.00	3.15	2.86	① ・どの学年も授業に取り組む姿勢が真剣である。特に、グループ討議や自学学習に取り組む姿勢等をみると目標が達成されていると感じる。 ・学習支援で児童の宅習を見ていると、教科書からノートに書き写すだけの作業も見られる。じっくりと考えることが苦手な児童が多いのではないかと感じる。 ② ・読書の習慣のきっかけが大切なので、ボランティアグループの読み聞かせをもっと活用するとよい。 ・家庭学習で音読をする機会を増やすとよい。 ・ユーチューブなど動画の影響が大きい。家庭環境を整えることが必要である。 ・最初は漫画から入るなどして活字に親しませて欲しい。	3.17
体	⑤ 体力向上プランに沿って計画的・継続的に体力の向上が図られているか。 ⑥ 基本的な生活習慣の定着や心身ともに健康に生活する態度が育成されているか。	⑤ 「進んで運動し体をきたえているか」という割合は約7割である。また、新体力プランでは上体起こしや長座体前屈の結果が去年より向上した。今年度は48項目で24項目がTスコア50以上を目標にしていた。男子は30項目と目標を達成できたが、女子は20項目と達成できず、男女の結果が分かれた。今後DE層の底上げを図っていく必要がある。 ⑥ 「自宅で、ゲームやテレビを見る時間が決まっている」と答えた児童は52%、「早寝、早起き、朝ごはん」を心掛け、規則正しい生活を送っていると回答した児童が70%、保護者が65%と低い。引き続き家庭への啓発や連携が必要である。	3.58	3.11	2.81	⑤ ・運動に苦手意識を感じず、楽しんで取り組むことができる環境があるとよい。 ・地域のこども園で取り入れている体操を学校でも取り入れてはどうか。 ・男子はスポーツ少年団で体力向上が図られているが、女子が体を鍛える機会が乏しくなっているのではないかと感じる。効果的な遊びを研究する必要がある。 ⑥ ・基本的な生活習慣の定着や健康への意識も保護者の意識改革と協力が必要である。 ・ノーメディア週間を徹底して欲しい。子ども達のSNSの使い方については更なる指導が必要である。ゲームはオンライン化しており時間が守られていない。メディアコントロールができておらず、保護者の協力が不可欠である。	3.17